



## 梅「南高」出番 大玉で高品質

三重・JA伊勢

【三重・伊勢】御浜町にあるJA伊勢三重南紀経済センター統一選果場では「小梅」

「古城」に続き「南高」の出荷が5月下旬から始まり、本格的な梅の出荷シーズンを迎えた。

本年産は1月下旬の寒波や降雪で開花が遅れたが、3月に入り気温が高めで推移して生

「南高」を丁寧に選果する作業員

育が早まり、玉はやや大きく品質も上々に仕上がった。収穫開始時期の着果数は、海岸部で平年並み、山間部はやや少なくなった。

「南高」は奈良や和歌山の契約販売業者を主な販売先とし、県内、中京の市場へ出荷する。

6月10日ごろまで青梅の出荷が続き、続いて梅干し加工に適している熟した梅に移る。

選果場では作業員20人が手作業で傷や潰れがあるものを手際よく

取り除き、選別機で大きき別に分け10キロ入りの段ボール箱に詰める作業に追われる。出荷は6月下旬まで続く予定で、総出荷量は約120トを見込む。

同JA営農柑橘（かんきつ）グループの古芝正樹副グループ長は「梅干しや梅ジュースは夏ばて防止や疲労回復に最適なので、自宅ですぐにチャレンジしてみたい」と話す。

同地区管内では「古城」「南高」などを生産者約80戸が15畝で栽培している。